

下田で働く人に聞いてみた

海上保安庁 第三管区海上保安部 下田海上保安部



みやはら こうすけ
宮原 孝輔 さん

海上保安庁では、令和2年度から採用制度を一部変更しており、幹部職員養成のため、海上保安大学校初任課という、一般の大学卒業生からの採用をスタートしました。

採用後は、2年間、海上保安大学校で、幹部海上保安官として必要な、高度な学術・技術を学ぶとともに、心身の錬成を図ります。

この春、ここで学んだ第一期生28名たちが、初めて各管区海上保安部などに配属されました。

このうち、巡視船しきねの主任機関士として宮原孝輔さんが下田海上保安部に配属となり、茨城県から静岡県までの太平洋側を管轄する第三管区唯一の海上保安大学校初任課卒業生の配属者となります。

そこで今回、「下田で働く人に聞いてみた」と題して、宮原孝輔さんにインタビューをしました。

【海上保安大学校初任課とは】

海上保安庁の幹部となる職員を養成するため、令和2年度から大学卒業生を対象として新設された採用制度です。広島県呉市の海上保安大学校に2年間在籍し、1年目は海上保安官として必要な基礎知識や訓練を履修し、2年目は現場の一般職員が幹部登用されるための研修制度である特修科に編入して幹部海上保安官としての知識を深めます。

特修科では船舶の運航に必要な資格である海技士の勉強をする前期と、法律の勉強をする後期に分かれています。

これら2年間の研修が修了すると、初級幹部海上保安官として巡視船に乗り組み、海上保安業務に従事することになります。

【船には何人乗船しているか】

私が乗船している「しきね」には約30人が乗船しています。

【船上の生活で苦労すること】

船酔いですね。海上保安官も人間ですので酔うこともあります。

船酔いしながらも仕事をしなければならぬので、水平線を眺めるなど、うまく抑えながら業務をこなしています。

【船上の生活での楽しみは】

ご飯です！やっぱりカレーがおいしくて、入港日は大体カレーになるのですが、市販のルーを使っていなくて、いろいろなスパイスをブレンドしているそうです。

【持っている資格は】

業務で必要となる小型船舶操縦士、陸上特殊無線技士、海上特殊無線技士は研修期間中に取得することができます。

大型船舶への乗船に必要なとなる海技士という資格については、乗船履歴（船舶での実務経験を積む期間のこと）が得られ次第取得することになります。

【海上保安大学校初任課とは】

海上保安庁の幹部となる職員を養成するため、令和2年度から大学卒業生を対象として新設された採用制度です。広島県呉市の海上保安大学校に2年間在籍し、1年目は海上保安官として必要な基礎知識や訓練を履修し、2年目は現場の一般職員が幹部登用されるための研修制度である特修科に編入して幹部海上保安官としての知識を深めます。

特修科では船舶の運航に必要な資格である海技士の勉強をする前期と、法律の勉強をする後期に分かれています。

これら2年間の研修が修了すると、初級幹部海上保安官として巡視船に乗り組み、海上保安業務に従事することになります。

【次の異動はどこに行きたいか】

2、3年程度で異動になるので、個人的には下田市と同じように自然豊かな場所、十一管区の沖縄などを経験してみたいと思います。雪が降る所は苦手なので南に行きたいです。

【船の秘密は】

長期間、航海することがあるので、船内には生活水を相当量蓄えることのできる大きなタンクを備えています。その利点を活かして災害が起こった際には、被災地で給水支援するといったことが可能になります。

実際、昨年静岡市で断水が発生した際に巡視船が給水活動を行ったので、海に面している下田市でも同様の対応が可能になります。

【下田の印象は】

下田に来て2か月になりましたが、海が本当に綺麗で、自然も豊かですので、散歩するだけでも魅力的なまちだなと感じています。歴史ある街ですので、しっかりと勉強し、史跡巡り等の



宮原 孝輔 (みやはら こうすけ)
巡視船しきね 主任機関士 25歳

で学んだことが活かせると思いい挑戦しました。

【業務の内容は】

巡視船の主任機関士として機関の運転・保守を担当するほか、海上警備計画の立案や海難救助に備えた各種訓練の企画等を行っています。

【業務のやりがい】

今はまだできないことの方が多いので、できることが一つ一つ増えていくことややりがいを感じています。

また、責任ある立場に就かせていただいているので、プレッシャーもありますが、その分、やり遂げた後の喜びも大きいです。

【業務で大変なことは】

関係先と各種調整するのは大変だと感じています。保安部からの指示と船内の要望が必ずしも一致する訳ではないので互いの立場を尊重し調整を行っています。円滑に調整できたときには強い達成感を感じます。

【黒船祭での活動は】

黒船祭では海上からの花火

打ち上げ等があったので、その警戒業務を行う等、陰ながら開催をサポートしていました。

【訓練はどのようなものか】

巡視船しきねには警備救難艇と呼ばれる小型のボートが搭載されているので、その揚げ降ろし作業や操縦の訓練、射撃訓練等も行っていきます。訓練を実施するときには、私は基本的に現場での作業指揮を担当します。

【訓練で意識してほしいこと】

ひとつ間違えれば重大な事故に繋がる危険もあるため、訓練では安全管理を徹底しています。訓練の時から安全管理を徹底しないと実際に事故が発生したときに迅速な対応ができません。

また、いつ出動要請がかかっても対応ができるように常日頃から準備と心構えをしています。

【帰れない時もあるか】

どうしても補給が必要になるので、他の港に寄ったりもしますが、長くて1か月近く下田に帰ってくる事ができないこともあります。

楽しみを増やしていきたいと思っています。

【これからの意気込みを】

初任科時代は、全国各地の様々な経験を持った仲間と互いに刺激しあい、切磋琢磨しながら学んできました。現在は「初任科第1期生」として現場に赴任し巡視船「しきね」の主任機関士を務めています。知識、経験共に不足し

ていますが、多くの事を経験していく中で、これから続く後輩の道しるべになっていくと共に、海上保安庁という組織に新しい風を起こしていきたいと思っています。

【市民の方々に一言】

下田は密漁対策に苦慮していると感じています。密漁による被害を1件でも減らし、下田の海の治安を維持できる

ように、下田海上保安部の一員として下田市に貢献していきたいと思っています。また、一人でも多くの市民の方々に海上保安庁という組織を知ってもらい、理解していただければ、これからは私自身が広告塔となって精一杯頑張りますのでどうかよろしくお願いたします。

